

		自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善策
重点課題	担当部・課	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見
多様性を育む キャリア教育 の展開	図書情報課	(全校レベル) I)児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現 II)卒業後を見据え、それぞれの成長と多様な学びに応じた教育活動の充実 III)特別支援学校教員としての専門性の向上 <下位組織レベル> ①異学年間の読み聞かせを実施し、読書に親しむとともに、児童生徒相互の社会性を養い、人間性を豊かにするための活動を推進する。 ②AI活用を主とした教職員向けの研修を行い、円滑な校務の遂行や、ICT活用指導力の向上を図る。ひいては働き方改革に繋げる。	評価指標 ①異学部間の読み聞かせ交流を年2回以上実施することができる。 ②-1 AIアプリを使用する研修を年間2回以上実施することができる。 ②-2 参加した教職員の内、80%以上の人が職務に「おおいに生かせる」「まあまあ生かせる」と答える。	評価指標の達成度 ①読み聞かせを10/20、12/1、12/8の年間3回実施することができた。 ②-1 1月までで3回実施することができた。2月にあと1回実施予定であり、年間4回実施予定である。 ②-2 全3回の研修に計41名参加し、41名中41名が「おおいに生かせる」「まあまあ生かせる」と回答している。	総合評価 (評定) A (所見) ①高等部の図書委員会のメンバーを中心となり、読み聞かせの練習・計画・実施することができた。小学部の児童としては、好きな絵本を読んでくれてとても楽しそうにしていて好評であった。高等部の生徒としては、小学部の児童に対して読み聞かせを行うことで、責任感やリーダーシップ、自己有用感を感じさせることができたように感じる。 ②現在、世界中でAIの活用が待たなしで行われている中、教育現場は活用しようとならない人が大多数である。そんな中、基本的な内容を集め、アンケート結果にもあるように良い内容を提供できたと感じる。もっともっと互いに使い合いい、「こんな使い方がいいよ」といった会話が聞こえるような職場環境にしていきたいと思う。	・異学年の読み聞かせにおいて、年上の子から年下の子に読み聞かせをしているのであれば、逆に年下の子が年上の子にできることはないか、考えてみたい。 ・絵本の中には文字がない本があるので、言葉のない子でも説明できたり、いろいろ広げられたら楽しいだろうか。 ②客観的に見ても明日からの校務に活用できるとも良い研修を提供できていると思うが、参加人数が振るわない。希望制にしているのにもかかわらず、教職員の職務の多さや学ぶ意欲の低下も影響していると感じる。来年度は内容を精選し全員参加にする日を設定したいと思うが、その分、時間が他で空けられるような計画を立てたいと思う。	
	進路指導課	(全校レベル) I)児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現 II)卒業後を見据え、それぞれの成長と多様な学びに応じた教育活動の充実 III)特別支援学校教員としての専門性の向上 <下位組織レベル> ①生徒の実態や希望、進路先の状況等をふまえた就業体験を実施する。 ②児童生徒、保護者、教職員、関係機関との意思疎通と情報共有をはかる。 ③保護者、地域、関係機関等、校外に進路についての発信を行う。	評価指標 ①就業体験を年2回以上実施する。 ②拡大進路相談会(高等部2年生)、進路説明会を実施する。 ③進路だより、ホームページで進路学習についての発信を行う。	評価指標の達成度 ①就業体験を年2回以上実施することができた。 ②高等部2年生を対象に拡大進路相談会を実施することができた。進路説明会を2回実施することができた。 ③進路だよりを前期、後期に各1回、ホームページで5回、発信することができた。	総合評価 (評定) A (所見) ①概ね計画通りに実施することができた。高等部3年生の進路については関係機関との円滑な連携ができた本人・保護者の希望に沿った進路決定ができた。 ②拡大進路相談では、本人と保護者の進路希望を各関係機関と連携することができた。 ③小学部、中学部を含め、保護者全体に進路学習や進路関係の行事についての発信し、本校のキャリア教育についての理解を深めることができた。	・卒業生や卒業生の保護者を学校に呼んで、話をする機会を設けてはどうか。それをホームページに挙げてはどうか。 ①本人と保護者の希望を尊重した丁寧な進路指導を実施していくために、担任に本人・保護者の希望を面談等でしっかり聞き取ってもらい、進路指導と協力しながら、進路指導を進めていくことが大切である。そのために進路に関するいろいろな情報を整理し密に伝達を図っていきたい。 ②関係機関との連携を図りながら就職や施設利用、卒業後の住居の問題について取り組んでいきたい。 ③引き続き、進路だより、ホームページで進路学習や行事、卒業生の進路状況についての発信を行ってきたい。	

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった